

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】 / (分野)		授業形式					
M343H303		クリニカルオンコロジー (Clinical Oncology)							対面 (含 オンデマンド型)					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
選択	2	3	医学部先進医療科学科	前期		日本語		オムニバス						
担当教員	氏名 田仲 和宏、猪股 雅史、小副川 敦、秦 聡孝、 大津 智、河野 康志、渡邊 哲生、緒方 正男、後藤 洋徳、札幌 博貴、波多野 豊、枝園 忠彦、													
	E-mail ktanaka@oita-u.ac.jp 内線 5872													
授業の概要	様々な悪性腫瘍（がん）について、発がん機構を含む基礎的事項、診断、治療、予後因子等の臨床的事項について、最新のエビデンスと臨床経験に基づき学び、がんの全体像について理解する。													
具体的な到達目標														
目標1	各がん種の発がん機構を述べることができる。						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標2	各がん種の診断について述べることができる							○						
目標3	各がん種の治療について述べることができる。							○						
目標4	各がん種の予後因子について述べることができる。							○						
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度（計10）								10						
授業の内容														
1 悪性腫瘍の発がん機構（病理遺伝子解析の意義）（田仲 和宏）														
2 消化器がん（猪股 雅史）														
3 肝胆膵がん（猪股 雅史）														
4 肺がん（小副川 敦）														
5 乳がん（枝園 忠彦：岡山大学呼吸器・乳腺内分泌外科）														
6 泌尿器がん（秦 聡孝）														
7 婦人科がん（河野 康志）														
8 頭頸部がん（渡邊 哲生）														
9 造血器腫瘍（緒方 正男）														
10 原発不明がん（大津 智）														
11 小児がん（後藤 洋徳）														
12 骨軟部腫瘍（田仲 和宏）														
13 脳腫瘍（札幌 博貴）														
14 皮膚腫瘍（波多野 豊）														
15 総まとめと小テスト総括、症例検討、課題（田仲 和宏）														
ラーニング	A:知識の定着・確認	☐ A；小テストによる自己評価				工 夫 の 他 の								
ニ	B:意見の表現・交換	☐ B；レポート提出												
ン	C:応用志向	☐ C；症例検討によるチュートリアル												
グ	D:知識の活用・創造													
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(35h)。												
	事後学修	授業での学習を活かし、小テストや配付資料を用いて復習する（25h）。												
	想定時間合計	60												
教科書	教科書は指定しない。 授業中に配付するプリント小冊子を使用する。													
参考書	日本臨床腫瘍学会編「新臨床腫瘍学（改訂第6版）」南江堂、2021年、ISBN978-4524227396													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	小テスト		10%	○	○	○	○						
	チュートリアル		10%	○	○	○	○						
	課題レポート		20%	○	○	○	○						
	定期試験		60%	○	○	○	○						
注意事項													
備考													
リンク													
	URL												
担当教員の 実務経験の有無	○												
教員の 実務経験	附属病院の医師												
実務経験を いかした教 育内容	各種がんの基礎的、臨床的事項について、最新エビデンスおよび臨床経験に基づいて講義する。												